

## 合唱団お江戸コリアーオ コロナ陽性者公表 濃厚接触者なし

合唱団お江戸コリアーオは、12月6日ウスタ川越(埼玉)で演奏会を開きました。それからほぼ2週間後の12月18日、オンステメンバーの一人が37.7°の発熱を訴え、PCR検査の結果陽性と判定されました。

12月20日、お江コラでは演奏会から罹患者が出るまでの経緯をfacebookで以下のように公表しました。

「実はおえこのメンバーで、Covid-19の罹患者が出ました。おかげさまで本人は元気で軽症です。保健所に相談の上、**演奏会の関係者は濃厚接触者に当たらない**ことは確認していますが、このようなご時世ですので以下の通り告知いたします。当該団員の回復を祈ります。」

- 12月 5日 リハーサル(検温などで異常なし)
- 6日 本番(同上)
- 18日 メンバーの一人が発熱を訴えPCR検査を受けた
- 19日 陽性が確認された。以後平熱に戻ったが療養先ホテルを調整中。団の練習は中止とし、保健所の指示を待っている。

お江コラは、もともと8月10日にウスタ川越で予定していたコンサートを延期せざるをえなくなったため、**コロナ感染対策の実証実験**として8月16日に小演奏会を別の会場(八王子市芸術文化会館いちようホール)を使って開催しました。その時の様子は『おんがく広場』第80号(8/19)で紹介してありますので、ご覧下さい。

実証実験を通じ、おそらく現在考えられる限りの感染防止策はきちんと実施しての開催だったと思います。しかし、現在のように市中で蔓延している状況では、感染経路の確定は難しいのではないのでしょうか。

感染者が出たことはとても残念なことです。それを隠すことなく誠意をもって公表するスタンスは歓迎すべきことです。このような行為こそが現在最も求められていることではないのでしょうか。

## JAMCA 関東演奏会中止

日本男声合唱協会は来年4月に予定していた関東演奏会の中止理由を12月19日発行の『じゃむか通信』第90号で公表しました。理由は、①各団体の練習が十分に

行えない、②各地で行う合同演奏の練習が多人数のため実施困難、③本番ステージの人数制限で地区合同演奏ができない、④会場の定員制限により収支の目途が立たない、⑤現状では参加者・観客の安全が保障できない、

⑥クラスター発生リスクが回避できない、ことで中止とし、2年後の開催を目指しています。

## 菅野さんの本棚

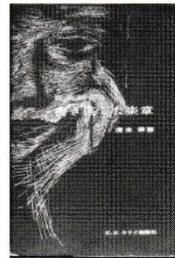
『じゃむか通信』で「男声合唱四方八方話」を連載されている日本バーバーショップ・カルテット協会の菅野哲男さんが、今号でご自身所蔵の合唱関係本を紹介しています。

古いところでは1959年の清水侑『音楽随想 書き残した楽章』から、熊谷幸子『辻正行さんのコーラスこそわが人生』まで9冊が紹介されています。

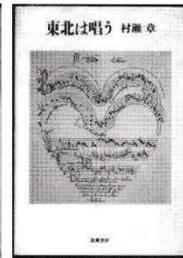
磯部倅『遥かな友に・わが音楽人生』、福永陽一郎『演奏ひとすじの道』、関屋晋『コーラスは楽しい』などに交じって拙著『音楽は体力です』が末席をけがしていました。

今年は合唱界には大変厳しい年となりました。コロナ禍収束の気配はまだ見えません。しかし、お江コラさんの試みに見られるように感染防止の知見が確実に増えていることは心強いことです。

## じゃむか通信 第90号 jamca



「書き残した楽章」



「東北は歌う」



「遥かな友に」



「ヨコハマ・神奈川合唱事情」



「演奏ひとすじの道」



「コーラスは楽しい」



「音楽は体力です」



「バーバーショップ・ハーモニーへの招待」



「辻正行さんのコーラスこそわが人生」

(合唱こぼれ話) 指揮者本人が身近な人が書いた本がある中で、大変活躍し、大勢の合唱人がお世話になった北村協一氏の本が未だに無いのが不思議だ。(またまた書いてしまった。)